

社協だより

高齢者いきいきセンター コンディショニング&調理実習・栄養講座



12月12日～14日の4日間、共生プラザ「そらいろ」にてコンディショニング&調理実習・栄養講座を行いました。

コンディショニングはR-bodyスタッフ、調理実習・栄養講座は地域食堂ワッカスタッフにご協力いただきました。



R-bodyのトレーナーより日常生活の動作を意識した運動を丁寧に教えていただきました。

肩甲骨を動かしたり、片足でバランスを取ったり、椅子から立ち上がったたり等、正しい姿勢をとりながら全身を使った運動。自宅でも簡単に出来る種目ばかりで魅力的な内容でした！



調理実習・栄養講座では、地域食堂ワッカの栄養士より食事の際に気をつけることや各栄養の働きについて説明いただきました。その後は、みんなで4種類のメニューを作り、20品目以上の食材を使ったとても栄養バランスの取れた食事が出来上がりました。出来た料理は、みんなで美味しくいただきました。



いきいきセンターの
仲間を募集しています。

ご興味のある方はお気軽にご連絡ください！お待ちしております！

TEL: 0166-82-7505 (担当: 伊藤)

発行：東川町社会福祉協議会

〒071-1423 上川郡東川町東町2-12-10 tel 0166-82-7505 fax 0166-82-7301

この社協だよりは、共同募金の配分を活用しています



新年のご挨拶

東川町社会福祉協議会 会長 永江 竜心

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、ご家族お揃いで新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、東川町社会福祉協議会の運営並びに事業活動に対しまして、多大なご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は五類になり、ほぼ平常の日常生活に戻りつつあります。その一方、地域によっては、インフルエンザが子供達等に流行している状況です。

そうした中に、細心の注意を払いながら、高齢者リスクを鑑み、可能な限りの方法で計画された事業を継続しております。

むしろ、このような状況下でこそ高齢者の居場所づくりが必要と考え、本協議会の事業である「いきいきセンター事業」や「地域まるごと元気アップ事業」また、認知症予防として、麻雀や将棋や花札などで遊ぶ「あそばん会」等を通じて、お互いの顔が見える、安心安全な地域社会の実現に取り組んでおります。

また、令和5年11月18日(土)に、東川町農村環境改善センターに於いて、本協議会主催で、「東川町社会福祉大会」が多数の参加を得、盛況に開催することが出来ました。

本年も、東川町共同募金委員会の赤い羽根及び歳末たすけあい募金運動に対して、多くの法人、個人の皆様よりご寄付を賜りました。関係各位方に厚く御礼申し上げます。

尚、東川町社会福祉協議会は東町1丁目から東町2丁目12番の「そらいろ」に移転しました。近くに駐車場もありますので、どうぞご利用ください。

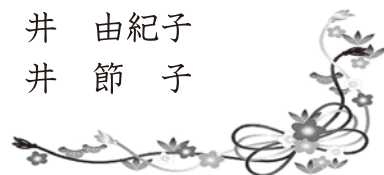
近年、本協議会の運営は介護報酬の減収、訪問介護員の不足等の厳しい状況にありますが、安心安全な福祉の町を目指し、地域住民から信頼される福祉活動に、役職員一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



賀 正

副会長	柏原定和
副会長	美勢恒子
常務理事	野澤秀夫
理事	竹内一馬
理事	山下智秋
理事	佐々木英樹

理事	鈴木真知子
理事	大友春江
理事	中田秀子
監事	石井由紀子
監事	福井節子



第43回 東川町社会福祉大会を開催しました

◇式典と福祉作文の発表・記念講演 打本 厚史氏◇



式辞を述べる永江社協会長



祝辞を述べる菊地町長



祝辞を述べる能登議長

11月18日（土）東川町農村環境改善センター大ホールにおいて、第43回東川町社会福祉大会を開催しました。

誰もが住み慣れた地域で安心して、心豊かに暮らすことができる福祉社会の確立、次世代を担う子どもたちの健全な生活環境の整備はみんなの願いです。本大会は、この願いの実現に向け社会福祉の関係者が集まり決意を新たに、多年にわたり社会福祉事業の発展に功績のあった方や団体等を表彰し感謝の意を表する機会として開催しています。



福祉作文を発表してくれた児童、生徒、学生の皆さん



「気持ちになる生き方」と題して講演いただいた鷹栖町専証寺住職の打本厚史様



【表彰状・感謝状贈呈】

（敬称略）

●東川町社会福祉協議会会長表彰

*表 彰 状

◎民生委員児童委員（10年）森田 貞義、大友 春江

◎シニアクラブ連合会役員（5年）村田 尚之、濱谷 義昭、庄内 禮子、野矢 静江

●北海道共同募金会会長感謝状

◎募金功労団体 東川町赤十字奉仕団、東川町農業協同組合、東川ライオンズクラブ

●日本赤十字社東川町分区長感謝状

◎奉仕活動功労者 金子 満里子、長原 篤子、原 八重、谷 美恵子、中田 秀子、
鬼塚 聡子

●東川町赤十字奉仕団50周年記念感謝状

松岡 たみ、長原 篤子

◆◆◆令和5年 東川町社会福祉大会 福祉作文◆◆◆



私と福祉のつながり

東川小学校 6年
武 田 七 星

福祉という言葉が最初聞いたとき私は、福祉とはどのようなことだろうと疑問をもって、インターネットで調べてみました。そこには、ふだんの暮らしを幸せにすることとめられてありました。また、福祉施設とは、公的な施設、老人ホームや児童施設などのことであることがわかりました。

私の母は、介護施設の洗濯の仕事をしています。その介護施設には、車いすの方や認知症、ねたきりの方がいるそうです。それ以外にも一時的に通われている方もいらっしゃるそうです。ショートステイで2、3日、長い人は1カ月以上たいざいする方が来ているそうです。目や耳が不自由な人や、足や手が思うように使うことができない人など、さまざまな方がいらっしゃるそうです。でもその方々はそれぞれの障害に関係なく自分がやりたいことをやりとげています。たとえば、手や目が不自由であってもピアノを、演奏するそうです。障害を、持っている方でも自分の楽しみやしゅみを持って生活をゆたかにしようと努力をし困んなことでもやりとげることが出来るのです。障害が、あっても可能性は、無限大だと思いました。

私は、福祉の活動としてボランティアでゴミ拾いをしたことがあります。ゴミが多くて点字ブロックなどに、ゴミが落ちていたことがあります。点字ブロックのところにゴミがあると目が不自由な方の歩行が、上手く出来なくなったり事故などのげんいんになるかも知れません。美しい町づくりとボランティア活動は、福祉にとっても、とても大切な事だと思いました。

私は、福祉の事を調べてみてどうしてずっと知らなかったんだろうと思いました。これまでは、誰かがやってくれていたから、みんなにとってすごしやすいかんきょうが作られていたことを知りました。快適に過ごせると思いました。これからは、私たち一人一人がみんなで協力したら、今の生活がよりよいものに、なると思います。私ももっと福祉の事を知って自分に出来ることを少しでもできるようにになりたいと思うきっかけとなりました。



ボランティアの大切さ

東川第一小学校 6年
寺 山 はるね

私は今まで『ボランティア』って「なんのためになるんだろう」と急に思ったことがありました。皆さんは考えたことがありますか？

私はわけもわからず児童会などで普通にリングブルな

どを集めていました。ですが集めている理由を知った時、ボランティア活動は『とても大切』なんだなと思いました。

例えば「リングブル集め」、「募金」などのその後にインターネットで調べてみました。リングブル集めだと車椅子に使われたり、リングブルの素材を使っているものを作ったりするために、アルミを溶かして再利用します。募金であれば、世の中の困っている人などのために集めて寄付するなど色々な人のために役立っていることがわかったので、自分も障がいを持っている人のために少しでも楽に生かされる世界にしていきたいと思いました。

今まで障がいを持っている人などの気持ちがわからないまま毎日過ごしていましたが、障がいについての学習をする中で、もし自分が障がいを持ったらどれだけ大変なのか、どういうふうに生活していけば良いのか、障がいの大変さを知ることができました。

大変さを知ったからこそ「今自分ができることをしないとな」と思いました。そして学校での活動で色々なことを考えました。

もし自分の身近の人で目が見えない人がいたり、困っていたりするお年寄りなどがいたら、「助けない」ではなく「助ける」というキーワードをいつでもどこでも頭の中に入れて過ごしていきたいです。

同じ人間だからこそみんなで助け合って生きていくことが大切だなと思いました。

皆さんも困っている人がいたら助けて、今の世界よりも良い世界にしていきたいです。



障がいのある人が生活しやすい町づくり

東川第二小学校 6年
立 石 深 雪

皆さんは、もし自分が障がい者だったら、と考えた事がありますか？自分の声や周りの声が聞こえない、目が見えない、歩けない、物事が上手く考えられない。そんな人達の事を支援するのが障がい者福祉です。

障がいのある人達は私達にできる事が出来ません。目が見えないひとは耳と触る事だけで自分を守っています。耳が聞こえない人は見て生活しています。ですが、誰かに手伝ってもらわないと生活できない人もいます。街の中にはそんな人達が普通の人と変わらず生活できる工夫がたくさんありました。

まず、視覚障がい者や視力が低い人達が安全に移動できる工夫をまとめました。最初に信号の工夫です。ここでは目が見えない人のために「音」を使って信号の色を伝えていました。そして、どんな音を出しているのだろうか。と思い、調べてみたら信号では「カッコーカッコー」や「ピョ、ピョピョ」という音が使われている事がわかりました。夜は音を止めていますが、交差点に設置されているボタンを押せばその時だけ音が鳴るようになって

います。

つぎは点字ブロックです。これは、でこぼこを利用して目が不自由な人たちに、道を教える役割をしています。点字ブロックがなかったら道がわからなくなり事故に遭ってしまうかもしれません。点字ブロックの上には物を置かないように注意しましょう。

それから車椅子用バリアフリー階段。これは公園や駅などの公共施設などでよく見られます。車椅子の人達の他にもベビーカーを使う家族にも利用されています。

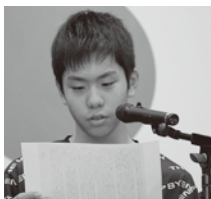
他の工夫には「バリアフリースイレ」がありました。私は「誰でも使えるトイレ」と呼んでいます。これは障がい者の他にもトランスジェンダーやXジェンダー、つまり男性でも女性でもどちらでも無い人も使えるトイレです。まだバリアフリースイレを設置している所が少ないので、バリアフリースイレを設置している所が増えれば良いと思いました。それに今は、バリアフリースイレは個室が一つしかないのもっと個室を増やしてほしいと思いました。

つぎは、スーパーと空港、駅などの場所の障がい者福祉の取り組み、バリアフリーを紹介していきます。スーパーには、出入口を自動ドアやスライド式にして車椅子やベビーカーも使えるようにしていました。ほかに、出入り口に段差がある所には、バリアフリー階段と一緒に点字ブロックを設置してドア開閉の時に音が鳴るようにして視覚障がい者も利用しやすくする工夫をしていました。

次に、駅や空港の取り組みを調べました。駅や空港には福祉の沢山の工夫がありました。まず、インターネットで電車の運行情報の案内のページを開くといろいろな案内の種類がありました。私が開いたページには「歩行の不自由なお客様へ」と「目の不自由なお客様へ」と「耳や言葉が不自由なお客様へ」などの他にも病気や怪我、妊婦や子供連れの人に向けたいろいろなタイプの案内ページが用意されていました。

ここまで紹介してきた物の他にもたくさんの工夫がありました。私は、「物では無い工夫」を調べました。それが、障害者も「働ける」工夫です。つい十六年前まで精神障がい者が働くことができませんでした。しかも、障がい者雇用が義務化されたのは、二〇一八年です。ですが、私は、この義務化が障がい者が普通の人と変わらず生活できる社会への大きな前進になると思います。

私はこの作文を書くためにいろいろな工夫を調べて、これからも障がい者の人達とアイディアを出し合い、障がい者の人達が便利な工夫を増やしていけたら良いなと思いました。



福祉って

東川第三小学校 6年
高 見 峻 平

僕は福祉と聞いた時に「何のことだろう。」と思いました。そこで、インターネットで検索してみると「福祉とは、しあわせ、幸福。特に、生活の安定。また、人々の幸福で安定した生活を公的に達成しようとする。」と出てきました。これを見て、「なるほど。こんな意味な

んだ。」と感じました。他にも「ふだんのくらしを幸せに」という意味がありました。

僕は福祉というのが、具体的にどんな事をしているのか気になったので調べてみました。「福祉」とは、最低限の幸福・社会的援助を提供することをいいます。その中で、援助を必要とする人に援助を提供する仕事、福祉の仕事になります。「困っている人などを助けることが福祉なんだ。それで世界の人々が難民に支援をしているんだな。」と思いました。

さらに福祉について調べていくと、「人が快適に生きられるように社会的な支援をすること。すべての人びとの『いのち』を大切に、『くらし』を豊かにして、『いきがい』を見つけることを支えること。『ふくし』と関係の深い言葉に『人権』がある。」という事がわかりました。人が快適に暮らせるように支援をすることだと感じ、福祉の事が少しわかってきたので、日常生活でも快適に暮らせるような取り組みを考えて生活していきたいと思いました。

また、福祉がいつから始まったのかが気になりました。調べてみると、社会福祉のルーツは、聖徳太子が開いた『ひでんいん』という貧しい人や孤児を助ける活動にまでさかのぼると言われていて、各時代で生活に困っている人々を助ける取り組みが脈々と営まれてきたことがわかりました。僕は「聖徳太子がいる時代からあるんだ！」と驚きました。しかしながら、国の制度として位置づけられるのは、明治7年に、貧しい人の救済を目的とした「恤救（じゅっきゅう）規則」というものが制定されてから始まったとのことでした。

次に福祉に関わる職業というのは、「人を助ける人達のことなのかな。」と思ったので、福祉に関わる職業を詳しく調べることにしました。福祉に関わる具体的な職種は、介護職員や訪問介護員、ケアマネージャー、社会福祉士、生活支援員、支援相談員、保育士、児童指導員、看護師、理学療法士などがありました。人を直接助ける職業の他にも、保育士や児童指導員なども当てはまることを知りました。福祉に関わる職業がこんなに多いとは思いませんでした。人を助ける職業はたくさんあり、色々な人が関わっていることを知りました。

僕はこれからの学校の活動などで、この「福祉」という言葉を意識して、暮らしを豊かにできるように工夫したり、たくさんの人を助けたりしていきたいと思います。



住みやすい 社会創りに関わりたい

東川中学校 2年
廣 瀬 彩

去年から「手話を楽しむ会」というサークルに参加している。このサークルは、手話を覚えることを一番の目的にしているのではなく、少し緩めで「楽しく手話を学びましょう」というサークルだ。

私が手話に興味をもった理由は、二つある。

一つ目は、知り合いに耳は聞こえるが言葉を発することが難しい方がいるからだ。

耳は聞こえるので、声をかければ反応はしてくれる。しかし、発話できないため、声での返事はない。彼女は